

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援事業所 ともい木				公表日	R7年 3月 17日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6				
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2		・職員の休みが重なってしまうと、配置数が厳しいと感じることがある。 ・こどもの状態によっては、丁寧な支援が行えない配置数。 ・配置数には入らないが、児童発達支援管理責任者が支援に入っている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日の清掃・定期的な教材とおもちゃの消毒などを行っている。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・こどもの状態により、パーテーションを使用することや部屋を仕切るなど、必要に応じ環境を整え対応している。		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2		・全体での職員の参画は、行えていない。 ・PDCAサイクルが、全職員に周知されていない。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・会議などにて、評価を周知・共有し業務改善につなげている。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・ケース会議や反省会・療育検討会議を通して、業務改善を図っている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4		・現状、行えていない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6				
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6				
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6				
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1		・支援計画を共有しているが、全職員が把握できていないこともある。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	・ケース会議などで、必要なプログラムを確認し、取り組んでいる。	・職員の意見や希望を取り入れながら、ベースを作って取り組んでいる。 ・主に、管理者が立案している。	

の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・同じプログラムを繰り返し経験していくことも大切であるが、内容が固定化されないように担当職員を変えて取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		・個々の課題に応じて、集団・個別を組み合わせ、日々の療育に取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	・課題内容や分担などについて、ホワイトボードや口頭で確認している。	・必ずとはいえない。 ・共有・分担は行えているが、勤務時間が違うため、職員全体での取り組みは難しい。 ・全職員での打ち合わせは難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	・気になる点や連絡事項などについて、共有できるようにカレンダーや朝のミーティングノートなどを使用し共有・確認しやすいようにしている。 ・気になる点などは、管理者と確認している。	・必ずとはいえない。 ・状況の共有は行えているが、勤務時間が違うため、職員全体での取り組みは難しい。 ・就労時間が異なるが、時間のある際や気付いた際に確認・共有している。 ・支援終了時間と勤務時間が同じなため、打合せは難しいが、気付いた点など共有できるようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			・課題以外についての支援の記録について、甘くなることもある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・家族からの希望に沿って、各関係機関との連携に取り組んでいる。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		・情報共有については、家族からの希望に沿って取り組んでいる。 ・管理者が主に行い、他の職員へ情報共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1		・今年度はまだそのような機会は設けていないように思う。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			未記入 4	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		・保育所や認定こども園、幼稚園等との併用利用児が多いため、移動などの問題もあり、現時点では考えていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・降所時など、その日のこどもの様子や課題内容について伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		・親子参加日として、親子での活動の際にアドバイスなどに取り組んでいる。 ・ともし木の活動についてなどの勉強会を開催している。 ・親子参加日の実施を、月2回ほど行っている。	・専門的なペアレントトレーニングは行っていない。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・契約や変更時に説明を行っている。		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・面談を行い、取り組んでいる。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		・面談を行い、確認している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・健康観察ノートを利用し、相談する時間を作りやすいようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	・保護者が交流する機会になるよう、保護者懇談会や勉強会などを開催している。	・きょうだい同士で、交流する機会は設けられていない。 ・親子で参加する行事や保護者に向けての勉強会を行っているが、保護者同士・きょうだい同士の交流は行われていない。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・相談された際には、迅速に対応できるよう取り組んでいる。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		・毎月、おたより「ともい木だより」を発行し、活動内容を伝えることや行事予定などを伝えている。	・SNSについては、検討中。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		・年に1回、保護者を交えた避難訓練を行う際に、地域の方の参加を募っている。 ・歩行訓練など、地域の方に顔が見えただけの・あいさつできる場面がある。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		・利用開始時・年度の切り替えの際に確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		・アレルギー対応がある際は、昼食の場所を分けるなどの対応を行っている。	・現在は無いが、対象児がいる際には、対応している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・ヒヤリハット・事故報告書など、その都度共有し、研修など取り組んでいる。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	・感染症対策などについては、ポスターなどを掲示し、注意喚起・周知を行っている。	・家族への安全計画の周知には至っていない。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・研修会の共有なども含め、研修会やチェックリストを使用し、虐待防止に取り組んでいる。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			・配慮しているが、追記そのような事項はない。